専門分野 衛3-11

科目名:臨地実習Ⅱ <福祉施設>

1単位 邺 (45時間)

(Clinical Practice I

履修年次/時期:3年次 後期 授業形態:講義•実習

中向井政子、関端麻美、井出 桃、西村 康、戸田真司(全員実務経験有) 担当教員:

学修目的 │ 高齢者や障害児(者)の口腔機能やQOLの向上に必要な技能を習得するため、対象となる人々の特性を理解し、対応 方法を学ぶ。 地域保健事業の内容を学び、対象者に適切な援助ができる基本の能力を身に付ける。 СР3,4,5,6 に 関連する。

科目No. S3C13H11

が目的と している

DP

- 0 この科目 │ 1. 医療専門職としての │ (1)生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。 倫理観を有する。 (2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。 0 2. 医療専門職として健 (1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。 0 康問題の発見と課題に取 0 (2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。 り組む能力を有する。 0 (3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。 0 3. 口腔の健康支援を通 (1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。 し、全身の健康を守る高 (2)優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。 0 度な専門的能力を有す (3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。 0
 - ◎: この講義・演習・実習と最も関連がある DP
 - 〇: この講義・演習・実習と関連がある DP

到達目標

- ・履修科目にて得られた知識や技能を実習現場で展開し、適切に歯科衛生業務を行う能力
- ・対象者の口腔保健向上に必要な取組(口腔ケア・歯科保健指導など)を実践することができる。
- ノーマライゼーションの意義や重要性を理解する。
- ・対象者の人権、価値観、考え方などを尊重し、敬意をもって接することができる。
- ・多様な対象者に対して主体的に働きかけを行い、理解を深め、適切なコミュニケーショ ンを図ることができる。
- 高齢者・障害者の福祉施設及び保健所の概要を理解する。

授業概要

臨地実習Ⅱでは、公衆歯科衛生の現場、高齢者福祉施設、障害者福祉施設において実習を行う。公衆歯科衛生の現場で は、母子保健、成人保健における健康診査や指導を実際に見学する。また高齢者福祉施設・障害者福祉施設では入所者、 通所者と生活を共にすることにより、口腔ケアがどのように実施されているのか、歯科衛生士がどのような役割を実際 に担っているのかを自分の目で実際に見て体感してくることが重要である。 学内での事前学習では実習施設について の講義を受け、グループワークを行なって施設の概要や高齢者・障害者の特性、高齢者、障害者施設、保健所の役割や 特徴を学びながら 各自で実習の目標を設定する。 実習後のまとめとして、レポート提出を行なう。事前学習として実 習施設へ出向くにあたり各施設の概要を調べる。また障害者、高齢者に関連する事項を調べてレポートにまとめて提出 する。

授業計画	(実習場所)
	• 学内教室
	・ 社会福祉施設 (横須賀市内および横浜市内の高齢者福祉施設、障害者福祉施設)
	・保健所 横須賀市保健所、健康福祉センター、コミュニティセンター
	(実習方法)
	・実習についてのオリエンテーション(学内)
	• 事前学習(学内)
	・施設及び保健所関係者による講義(学内)
	・施設及び保健所における実習
	・まとめ レポート提出(学内)
	・プレゼン資料作成と発表(学内)
	◎ 感染症拡大の状況により、実習内容や実習場所が変わることがあります。
評価方法	学期末本試験 80% 実習への参加態度 20%で総合評価をする。
	本試験にあたっては実習参加とレポート提出を必須とする。
	試験に対するフィードバックは掲示またはポータルサイトで行う。
教科書	なし
	必要な資料をそのつど配布します。
参考書	高齢者歯科学、障害者歯科学、歯科保健指導論、介護技術などで購入した教科書
オフィスアワー	中向井政子 月~金 16:30~17:00 3 号館 2 階研究室 nakamukai@kdu.ac.jp
連絡先	関端麻美 月~金 16:30~17:00 3 号館 2 階教員室 sekibata@kdu.ac.jp
	井出 桃 月~金 16:30~17:00 3 号館 2 階研究室 ide@kdu.ac.jp
	西村 康 月~金 12:10~13:10 4 号館 2 階研究室 nishimura@kdu.ac.jp
	戸田真司 月~金 12:30~13:10 16:30~17:00
	4 号館 2 階研究室 toda.s@kdu.ac.jp
	各教員とも不在時はメールを頂けると確実に対応できます。